

まだ...ホットでない

今回ホットなストレージとしてとりあげた技術は全て、2018年に企業で実際に使われると我々が考えるものだ。しかし、データストレージを偵察する我々のレーダーには、将来に向けて目をつけておくべき、それ以外のトレンドも映っている。

| 技術 | 判定 |
|-------------------|--|
| ラックスケール ストレージ | 誰に聞くかによって、コンポーザブル・インフラストラクチャーという言い方やディスアグリゲートシステム、あるいはこれらの単語を組み合わせた用語が返ってくるだろう。業界で標準の用語と定義が決められる頃には、これがホットになっているだろう。 |
| データ管理 プラットフォーム | そう、この言葉については沢山耳にしているだろう。しかし、我々が言えるのは、この用語はまだデータ保護のお洒落な呼び方に過ぎない、ということだ。我々がホットと認定する前に、ベンダーがどのようにこのプラットフォームを作るか見てみよう。 |
| メモリーベースの ストレージ | これまでのところ、話だけで実際の行動が少ない。NVMeはアレイ市場ではホットだ。しかし、3D XPointやOpteronはまだ自分の進むべき道を模索しているし、NVDIMM、磁気抵抗RAM (MRAM)、抵抗変化型メモリ (RRAM)、スピン注入メモリ (STT-RAM)、ストレージ・クラス・メモリーも現実世界の事例より、略語だらけの技術記事で見かける方がずっと多い。 |